

九州伝産の旅

vol. 9

2022 年

薩摩焼 日置南洲窯

<窯元紹介>

日置南洲窯は、代表 西郷隆文氏が島津家お庭焼の長太郎窯で修業した後、昭和 53 年に日置島津家の菩提寺である吉富山大乗寺跡のある鹿児島県日置市日吉町に開設。現在、弟の等氏含め、5 名体制で運営しており、食器、酒器、花器、茶器、その他日常生活に密着した作品づくりを行っている。隆文氏は 2011 年に「現代の名工」に選ばれ、2012 年には「黄綬褒章」を受章。また、2021 年には「鹿児島県民表彰」を受賞し、現在は鹿児島県日置市の観光大使として、薩摩焼を通じた地域振興に力を注いでいる。

ひ お き なん し ゅ う が ま 薩摩焼 日置南洲窯

独自技法によるオンリーワンの作品と西郷家ゆかりの地域振興で産地を牽引

日置島津家の菩提寺である吉富山大乗寺跡の敷地内にひっそりと佇む「日置南洲窯」さん。西郷隆盛氏の血筋を受け継ぎ、歴史と陶芸を融合させた情報発信で地域振興に貢献されている西郷隆文さんにお話を伺いました。



日置南洲窯 代表 西郷隆文さん



緑あふれる工房



日置南洲窯のコーヒーカップ

■ 薩摩焼の歴史・特徴

薩摩焼は、白薩摩と黒薩摩に大別されます。白薩摩は、薩摩藩の保護管理の下で生産され、表面に貫入と言われる細かいヒビが入っているのが特徴で、ややベージュ色のかかった生地に金彩・錦手など豪華で繊細な上絵付けが施されています。明治時代にはバリ万博などで好評を博し「SATSUMA」の名称で世界的な輸出品として生産が拡大しました。黒薩摩は、庶民の生活の器として主に用いられました。黒・茶・緑など多様な色彩と素朴で剛健な趣は、人々の生活に溶け込み親しまれています。焼酎専用の酒器、黒茶家(くろじょか)などが有名です。現在の薩摩焼は、420 年以上に渡る伝統を基礎に数々の名工を輩出し新しい作品を生み出しています。

※鹿児島県薩摩焼協同組合 HP より引用・編集。

Q.「日置南洲窯」の特徴を教えてください

釉薬の魅力を最大限に活かした色と質感が特徴の「蛇蛸釉（だかつゆう）」の技術や、ろくろを回しながら板で叩くことで仕上げていく「叩き」の技法が特徴です。「蛇蛸釉」は傷隠しのための昔からある技法ですが、当窯の蛇蛸釉は白い釉薬がかかっているのが特徴で、製作している時に偶然生まれた技法です。今では当窯の看板商品になっています。「叩き」も私の得意な技法ですが、きれいになりすぎず、丸みが出るのが特徴です。



蛇蛸釉の作品



「叩き」の技法を使った作品

「叩き」に使われる道具

Q.様々な独自の技法を開発されていますね。

他にも、焼いた上からさらに漆を塗って磨きをかけた「陶胎漆器（とうたいしっき）」を製作しています。また、薩摩焼の土に細かくしたシラス（火山噴出物）を熱して中を膨らませたものを混ぜた「シラスバルーン」を用いた器を製作する技術も開発しています。これは世界で日置南洲窯でしか作れないオンリーワンの技術です。「陶胎漆器」は漆の職人さんと、「シラスバルーン」は県の工業技術センターと共同で開発しました。シラスバルーンはシラスを使っているため、とても軽いのが特徴です。製作にあたっては、薩摩焼の伝統に新たな技法を加え、「 $1 + 1 = 2$ 」ではなく、「 $1 + 1 = 3 \sim 5$ 」のものができないかということを常に心がけています。材料にもこだわっており、種子島の粘土等も使用しています。



陶胎漆器



シラスバルーンを使った作品

Q.西郷隆盛氏の曾孫さんとお聞きして驚きました。

はい、父は西郷家、母は日置島津家の家系です。特定非営利活動法人西郷隆盛公奉賛会の理事長として、郷土鹿児島県の歴史・文化・伝統を伝える活動も行っています。2019年には台湾で「西郷菊次郎之孫西郷隆文 西郷等 兄弟展覧」という催事を開催し、日置南洲窯の作品の展示とセミナーを行い、多くの方に来場いただきました。



西郷隆盛は篤姫の嫁入り道具の調達役を担ったと言われており、美術に造詣が深かったんですよ。

Q.産地としての取組を教えてください。

若手の陶芸家を母体とした薩摩焼の組合「鹿児島県陶業協同組合（現在の鹿児島県薩摩焼協同組合）」を設立し、初代理事長をつとめました。その他にも、全国伝統的工芸品産業振興協会 理事を務めるなど、伝統工芸の振興にも力を注いできました。

Q.最近の取組を教えてください。

最近の取組としては、単なる焼き物ではなく、彫刻の要素を取り入れた大型の作品や人形を作っています。特に人形は、ろくろでひけない点や、顔の表情などに難しさがありますね。



大型の作品



西郷隆盛氏の胸像



お地藏さん

profile

窯元名

日置南洲窯

場所

鹿児島県日置市日吉町日置 5679

電話

099-292-3477

定休日

日曜日

営業時間

9:00～17:00

Web サイト

<https://satsumayaki-coop.com/potter/26>

※鹿児島県薩摩焼協同組合 HP

Q.隆文さんのモットーを教えてください。

やはり「敬天愛人」ですね。相手を敬う気持ちを大事にしています。

例えばお菓子が一つあったとしますよね。それで2つに割った時に、大きい方と小さい方ができたとしたら、小さい方を自分に、大きい方を相手に差し上げなさいと小さい頃から教わりました。自分の孫にもそのように伝えています。

仕事においても、そのような気持ちがないと良いものは作れないと思いますね。



Q.今後の目標は？

薩摩焼の展示・イベント・セミナーが実施可能な「西郷・陶芸の館」を創設し、ホームページとオンライン連動させるような取組を計画しています。西郷・陶芸の館に来館していただくことで、薩摩焼の形状や質感など、目で見て肌で感じていただくとともに、薩摩の歴史を伝えていきたいという思いがあります。来館者が生でセミナーを聴講して臨場感を味わっていただくほか、陶芸教室などの体験イベントも提供する予定です。特に、子供向けの陶芸展等も実施して、小さい頃から地域の歴史や陶芸に触れ、興味を持ってもらう機会を作りたいと思っています。また、陶芸の館では、曾祖父（西郷隆盛氏）が当時使っていた器なども再現して展示する予定です。

Q.薩摩焼の魅力、日置市の魅力を教えてください。

薩摩焼は白と黒が基本ですが、実はその中間がたくさんあります。伝統を受け継いで守りつつ、様々な作風が存在し、バリエーションが豊かです。最近の若い作家さんは薩摩焼以外の産地で修行して、習得した技術を薩摩焼に取り入れるようなパターンが多いようです。日置市の魅力はやはり「歴史」だと思います。島津義弘公や小松帯刀公にゆかりのある史跡や魅力的な観光名所がたくさんあります。当窯の敷地にも、歴代の日置島津家の墓地があり、全国から観光客が訪れていますよ。

西郷隆盛氏の曾孫さんとお聞きして緊張しましたが、気さくで温かなお人柄で、地元の皆さんから頼られ、慕われている理由がよく分かりました。西郷ブランドを活かしつつ、地域振興に尽力されていらっしゃるリーダーとしての一面と、遊び心を大切にしながら、オリジナルのものづくりにこだわっている陶芸家としての一面が合わさって、シナジー効果を生んでいるように感じました。